

## 実施概要

- ▶ 「たかはし2025 地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～より良い連携を目指して～」の100の事業について、4つの基本方針に基づく**15の施策単位で、連携推進部会で評価を行い、高梁市医療計画のHPで結果を公表すること**を、大枠の実施方針として各取組みを、**3段階（○：現行どおり、—：一部改善、△：見直し）に分けて評価（主な取組内容、今後の取組みの整理）**を行いました。
- ▶ また、**他の取組みへ波及効果が高いと考えられる取組み**を施策毎に定め、第2期事業期間での**重点事項とし、実施時期を整理**しました。

## 中間評価のポイント（基本方針毎の抜粋）

### I. 住民の医療需要が変化しても、適切な医療が受けられること

- 継続（現行どおり）**
  - ▶ **市内医療機関、教育機関の関係者を含めた定期的な部会**の開催を通じて、医療機関間の役割分担の推進、共同で実施する仕組みの構築など**地域を見据えた医療提供体制に関する議論が進んでいる点等**を評価しています。
- 継続（一部改善）**
  - ▶ 市外医療機関（岡山大学病院、倉敷中央病院、川崎学園）との包括連携協定により、市外医療機関との連携体制が構築されている点等を評価しています。
  - ▶ 今後は**協定先との連携内容の具体化を図っていく必要等**があります。
- △ 見直し（改善）**
  - ▶ オンライン診療については規制緩和がなされ、一部市内の医療機関でも研修受講等の体制整備が行われています。**今後は国の指針をふまえ、本市での取組み可能性を検討していく必要等**があります。

### II. 医療従事者が誇りを持って働ける、持続可能な地域医療

- 継続（現行どおり）**
  - ▶ 多職種連携研修会（年2回）やスキルアップ研修会（年10回以上）など、**職種や組織を超えて、組織横断的な研修会を継続して開催している点等**を評価しています。
- 継続（一部改善）**
  - ▶ 返還猶予規定の見直しや医療機関と連携した奨学金制度の創設等、看護師等を確保のため制度拡充を行っている点等を評価しています。
  - ▶ 今後は**市内医療機関への就職促進や定着促進、潜在看護師の復職支援等に取り組んでいく必要等**があります。
- △ 見直し（改善）**
  - ▶ 新型コロナウイルス感染拡大もあり、病院での実習受入が難しくなり、市内医療機関を知る機会が減少しています。**今後は感染症の拡大状況をみながら、実習受入ができない場合の代替手段を検討していく必要等**があります。

### III. 子どもを産み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート体制の整備

- 継続（現行どおり）**
  - ▶ 市内での分娩施設の設置は人材確保等の面から困難な状況ですが、**市内クリニックでの周産期医療と市の妊産婦、乳幼児へのサポート事業により、妊娠から子育てまでの切れ目のない様々なサポート体制が構築されている点等**を評価しています。
  - ▶ **市内の産科医、小児科医、専門職で構成される連絡会で、母子保健に関する支援や連携事例など定期的な情報共有がされている点等**を評価しています。
- 継続（一部改善）**
  - ▶ 市内で子どもを産み育てやすくするため、**医療機関・大学・消防署・市役所で連携し、妊娠、出産、子育て期の不安、疑問に対して様々なサポート体制を構築している点等**を評価しています。
  - ▶ 今後もサポート体制を継続していくとともに、**妊産婦以外の幅広い世代の市民の方へもサポート体制について周知していく必要等**があります。

### IV. 地域での自立した生活に寄り添う基盤の整備

- 継続（現行どおり）**
  - ▶ 多職種連携により、**市内の入退院支援ルールの一貫、高梁版情報共有書を作成し、定期的な見直しを行いながら活用している点等**を評価しています。
  - ▶ **ウェブサイト、行政放送、広報紙、寸劇により、在宅医療の普及啓発や病院紹介等を、継続してわかりやすく情報発信している点等**を評価しています。
- 継続（一部改善）**
  - ▶ 研修会や講演会を通じて、ACP（人生会議）の取組みについて、医療・介護従事者への理解が深まっている点等を評価しています。
  - ▶ 今後は、ACPツールの作成、活用により、**患者やその家族が、治療・療養の意思決定を円滑にできるようACPの普及啓発を進めていく必要等**があります。
- △ 見直し（改善）**
  - ▶ 地域包括ケアを担う医療・介護従事者間で円滑な情報共有ができる土壌は形成されています。
  - ▶ 今後は**やまぼうし等のICTツールを活用した情報共有の効率化に向けて、利便性を実感していただき、利用者数向上を図っていく必要等**があります。

## 第2期事業の重点事項と実施時期

令和4年度	令和5年度	令和6年度
1,2 医療機関間の役割分担（医療機能における役割分担、担当地域における役割分担）	5 医療機関同士が共同で実施する取組み（業務負荷を分散しつつ医療提供体制を維持する仕組みの検討、医療提供拠点の配置適正化）	15 技術動向や導入事例の調査
17 高度急性期医療を担う市外の中核病院との連携	13 公的支援が必要な範囲（特に手当てを要する医療機能や診療科）	46 奨学金制度の普及・改善
27,28 職種間での交流機会の増加（在宅医療・介護連携推進協議会、多職種連携研修会）	22 業務の効率化（患者とのコミュニケーションに充てる時間を確保できるようにするための業務改善）	68 出産・子育てに関して、受けられるサポートや利用できるサービスのPR
36 現場に活かせる教育プログラムの検討（教育機関による卒業後を見据えた研修の取組み）	72 やまぼうしの活用（診療情報の共有スキームの構築）	100 市や一般社団法人高梁医師会のホームページの活用
51 研修内容の検討	78 通院手段の充実（交通アクセスの空白地帯となっているエリアを中心として、生活福祉バスや乗合いタクシーの活用）	
89 医療従事者等の役割の見直し（プライマリ・ケアの実践、患者本人の意思決定ができなくなる前に患者・家族と医療従事者が治療・療養の方針を話し合う、ACPへの取組み、在宅看取りへの対応等の検討）		
54 離職者へのPR		